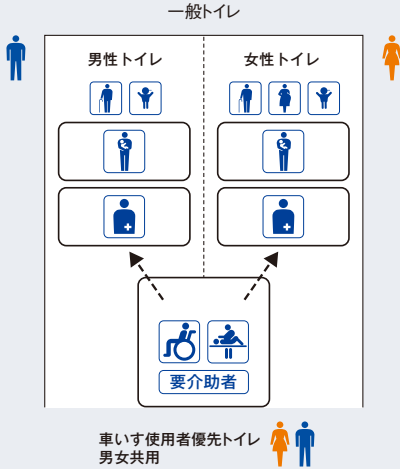


“使いたいときに使えない”を解消するために

求められるトイレの機能の分散化

「車いす使用者対応トイレ」は、スペースの広さから車いす使用者に限らず、乳幼児連れ、オストメイトの方にも利用しやすく、“多機能化”が進み普及してきている一方で、車いす使用者から“混雑していて使いたいときに使えない”という声もあがっています。混雑を緩和しより使いやすいトイレを実現していくためには、これからは、オストメイト対応流しや乳幼児のおむつ交換設備を多機能トイレに集中して設置するのではなく、一般トイレにも広めのブースを設けてそこへ設置するなど、トイレ全体にバランスよく分散して配置する考え方(機能分散)が重要です。

一般トイレも含め機能分散 → 多機能トイレの混雑緩和



一般トイレ内に広めのブースを設け、オストメイトや乳幼児連れ配慮設備を多機能トイレから移動します。

多機能トイレは車いす使用者優先トイレとします。(大型ベッド使用者含む)

車いす使用者優先トイレは知的障がい者、発達障がい者、高齢者など介助を必要とする方の利用も想定します。異性介助を考慮し男女共用トイレとします。

車いす使用者トイレに



一般トイレのオストメイト配慮ブースに

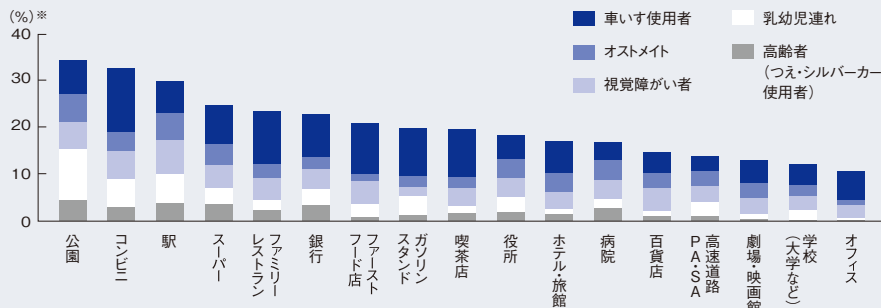


“だれもが安心して外出できるまちづくり”のために

求められる中小規模施設トイレのバリアフリー化

少子高齢社会を迎え、また、障がい者の社会参加の活発化などを背景に、外出環境のバリアフリー化の必要性がより一層高まってきています。不特定多数の人が利用する日常生活に密着した施設では、たとえ小規模であっても、高齢者や障がい者、乳幼児連れの人などへの配慮が当たり前求められる時代です。

整備してほしい日常生活に密着した中小規模トイレ



「公共トイレの利用状況アンケート調査」(2011～2013年 TOTO調べ)

車いす使用者:n=204、オストメイト:n=155、視覚障がい者:n=200、乳幼児連れ:n=200、高齢者:n=200、合計:n=959

※単位%=(回答者数/総回答者数 n=959)×100

スペースに制約のある車いす使用者対応トイレに



乳幼児連れ配慮の多機能トイレに



多様な人に配慮した多機能トイレに

